

# 各教科、意識調査結果の概要

(島根県学力調査結果)



小学校	国語	.....	1
中学校	国語	.....	2
小学校	算数	.....	3
中学校	数学	.....	4
小学校	社会	.....	5
中学校	社会	.....	6
小学校	理科	.....	7
中学校	理科	.....	8
中学校	英語	.....	9
意識調査		.....	10・11 P
意識調査資料		.....	12～17 P

○スコア一覧<小学校>

○スコア一覧<中学校>

○意識に関する調査結果一覧

島根県教育委員会

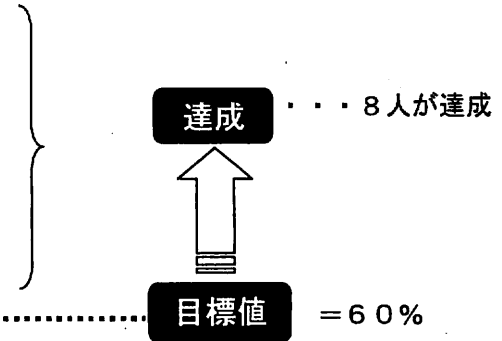
## 教科に関する調査の集計データと用語の解説

### ◎教科に関する調査で集計する「到達度・目標値・平均到達度・達成率」とは？

個人データ	1 「到達度」とは、その児童生徒が正答・準正答した問題数の割合です。 2 「目標値」とは、その児童生徒が概ね満足と言えるための正答・準正答した問題数の割合です。 3 「達成」とは、その児童生徒の到達度が目標値以上であることをいいます。
-------	---

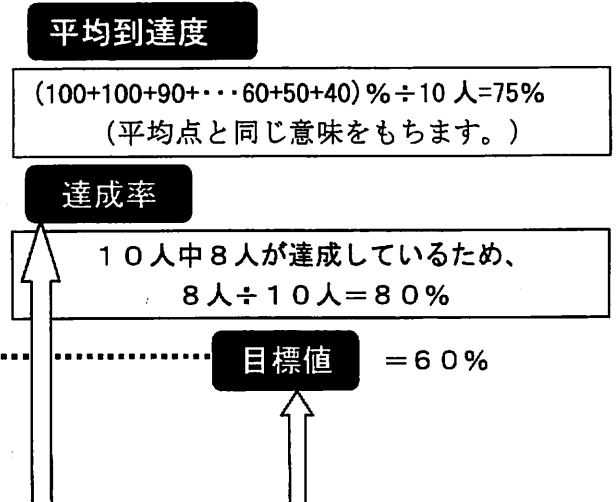
例) 問題数が50問の調査で、目標値が60%の場合

児童	正解した問題数	到達度
1	50問	100%
2	50問	100%
3	45問	90%
4	45問	90%
5	40問	80%
6	40問	80%
7	30問	60%
8	30問	60%
9	25問	50%
10	20問	40%



集団データ	1 「平均到達度」とは、その集団における児童生徒の到達度の平均です。 2 「達成率」とは、その集団における目標値を上回った児童生徒の割合です。
-------	--

児童	正解した問題数	到達度
1	50問	100%
2	50問	100%
3	45問	90%
4	45問	90%
5	40問	80%
6	40問	80%
7	30問	60%
8	30問	60%
9	25問	50%
10	20問	40%



今回の学力調査は、それぞれの教科で、2/3の児童生徒が「目標値」を上回るであろうとの企画のもとに作問がなされ、目標値が設定されています。

つまり、約67%の達成率を、達成状況を判断する一つの基準として設定しています。

島根県では、達成率70%以上を概ね良好な状況と判断しています。

# 小学校 国語 <調査結果・指導のポイント>

## I 教科全体の概要

### 1 教科全体の状況

- ・ 全学年において、達成率が70%を超えており、概ね良好な状況であると思われる。
- ・ 教科全体のバランスは、「書く力」と「言語についての知識・理解・技能」がやや落ち込んでいる。

### 2 領域別・表現様式別の状況

- ・ 「聞く力」は、全学年ともに達成率が70%以上であり、概ね良好な状況であると思われる。
- ・ 「書く力」は、小5を除いて達成率が70%を下回っている。
- ・ 「読む力」は、小5を除いて達成率が70%以上であり、概ね良好な状況であると思われる。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」については、小5から中1までは、達成率が70%を下回っている。特に漢字の書き取りや指示された言葉を用いた短作文の問題の通過率が低い。

### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 「国語が好き」と答えた児童生徒は、全学年において70%を下回っており、学年を追うごとに低下している。
- ・ 「聞くこと」について、肯定的な回答をした児童生徒は、全学年で75%以上であり、概ね良好である。しかし、「発表することが好きである」などの「話すこと」については、全学年において50%程度であり、良好な状況とはいえない。
- ・ 「書くこと」については、中1の「文章を書くのが好きである」において、肯定的な回答をした生徒の割合(39.3%)は低い。

## II 考えられる要因・背景

- 「聞く力」の問題について概ね良好な結果が得られたことは、「話すこと・聞くこと」の単元において、相手意識や目的意識を働かせる単元開発や指導法の工夫改善が行われた成果と考えられる。
- 「書く力」について十分でない状況から、様々な場面において、より効果的に自分の考えをまとめるなどの書く活動を取り入れた指導が十分でないと思われる。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、漢字の読みを除いた問題の通過率が低い。このことは、日常的に、既習の漢字や言葉を用いた言語活動を行っていないことが考えられる。また、辞書の活用状況が良好でないことから、言葉に対する関心・意欲・態度を高めるような指導が十分でないと思われる。

そこで、国語科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。



## III 指導の重点

- 語彙力を身に付けるような学習を工夫する。  
(3領域の指導の中で効果的に取り上げること、辞書を積極的に活用すること、言葉に立ち止まったり、吟味したりする活動を多く取り入れること、諺や慣用語を用いた短作文を書く活動を行うことなど)
- 書く力を身に付けることに重点を置いた学習を展開する。  
(相手意識や目的意識を重視した書く活動を行うこと、構成メモを活用した書く活動を行うこと、他の2領域の指導の中に書く活動を効果的に位置づけること、書いた後読み返すことの習慣化を図ることなど)

# 中学校 国語 <調査結果・指導のポイント>

## I 教科全体の概要

### 1 教科全体の状況

- ・ 両学年において、達成率が70%をわずかに下回っている。
- ・ 教科全体のバランスは、「言語についての知識・理解・技能」がやや落ち込んでいる。

### 2 領域別・表現様式別の状況

- ・ 「聞く力」は、達成率が90%以上であり、良好であると思われる。
- ・ 「書く力」は、中3の達成率が50%を下回り、課題である。
- ・ 「読む力」は、中3の達成率が60%程度であり、良好とはいえない。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」については、達成率が60%程度であり、課題である。特に、漢字の書き取りの問題については良好とはいえない。

### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 「国語が好き」と答えた生徒は、55%程度にとどまっており、良好とはいえない。
- ・ 「新しく習った漢字は、繰り返して練習するようにしている」について、肯定的な回答をした生徒の割合は、中2から急激に落ちて40%を下回っている。
- ・ 「知らない言葉があったときは、国語辞典や漢字辞典で調べるようにしている」について、肯定的な回答をした生徒の割合が60%程度であり、良好とはいえない。

## II 考えられる要因・背景

- 「聞く力」について、良好な結果が得られたことは、「話すこと・聞くこと」の学習が意図的に行われてきたことの成果が現れていると考えられる。
- 文脈に即した内容の理解と記述、登場人物への助言の記述などの問題が十分な状況でないことは、「読むこと」の指導において、読み取ったことから自分の考えをまとめて書く活動を取り入れた指導等が不十分だと考えられる。
- 漢字の書き取りの問題が十分な状況でないことは、学習した漢字を練習したり、それを日常の「書くこと」につなげていく学習が十分でないためであると考えられる。また、辞書の活用状況が良好でないことから、言葉に対する関心・意欲・態度を高める指導が十分でないと思われる。

そこで、国語科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われる。



## III 指導の重点

- 語彙力を身に付けるような学習を工夫する。  
(3領域の指導の中で効果的に取り上げること、辞書を積極的に活用すること、言葉に立ち止まったり、吟味したりする活動を多く取り入れること、優れた文章を読み味わったり、自分の表現に生かしたりすることなど)
- 読む力を高めるような学習を工夫する。  
(構成・文体の工夫などに気づかせるなどの多様な読みの視点を獲得するような読む活動を取り入れること、文脈に即した内容の理解を重視すること、自分のものの見方や考え方を広げるための読む活動を工夫すること、読みとったことをまとめるための書く活動を取り入れることなど)

# 小学校 算数 <調査結果・指導のポイント>

## I 教科全体の概要

### 1 教科全体の状況

- ・ 小3, 小4, 中1は, 概ね良好な結果であるが, 小5, 小6は, 達成率が低く良好とはいえない。
- ・ 基礎と応用の達成率に差がない学年が多く, 小3は基礎の達成率が特に高い。
- ・ 学年が上がるにつれて達成率における個人差が大きくなる傾向が見られる。

### 2 観点別・領域別の状況

- ・ 「数と計算」と「量と測定」では, 計算の技能や簡単な求積の技能は概ね良好であるが, 数の相対的な見方や計算の意味, 単位の選択などの知識・理解は通過率が低い。
- ・ 「図形」は小6の達成率が高いが他の学年は低く良好とはいえない。「数量関係」は小4と中1の達成率が高く概ね良好であると思われる。

### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 算数が好きと答えた児童は, 55%~70%程度にとどまっており良好とはいえない。特に小6は54.8%, 小5は64.0%と低く課題である。
- ・ 「問題を解いた後, 計算ミスがないか確かめるようにしている」に肯定的な回答をした児童が多いが, 「身の回りのことを表やグラフで表して, 変化のきまりを調べてみたいと思う」「ことばや図, ものなどを使って自分の考えを話すようにしている」に肯定的な回答をした児童は少ない。

## II 考えられる要因・背景

- 計算技能の定着が良好であることは, 「問題を解いた後, 計算ミスがないか確かめるようにしている」児童が多いことや, 計算練習などの繰り返しの指導が徹底されていることがその要因と考えられる。
- 数の相対的な見方や量の単位の大小などの知識・理解については, ものの数を数えたり, 量を測定したりする活動がグループ等で行われ, 実際に児童一人一人が行っていないことや, その結果などを記録したり伝え合ったりする活動が十分行われていないことが要因の一つと考えられる。
- 前回の調査でも課題であった計算の意味理解が十分でないことは, これらの問題と「授業では, ことばや図, ものなどを使って自分の考えを話すようにしている」項目との関連が強いことから, 授業において様々な方法で表現し, 分かり合う活動が十分行われていないことなどがその要因の一つと考えられる。

そこで、算数科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。



## III 指導の重点

- 数量に対する豊かな見方や感覚を育てるために, 算数的活動を充実させる。
  - ・ 児童一人一人が, 様々な具体物の数を数えたり, 量を測定したりする活動とともにその結果を表す活動を児童の実態に応じて工夫し, 積極的に取り入れる。
  - ・ 数を多面的にみる見方に触れたり, 身の回りのものの量を調べたり確かめたりする活動を児童の実態に応じて工夫する。
- 計算の意味などの確かな理解と定着を図るために, 考えを表現する活動を充実させる。
  - ・ 立式の根拠を児童一人一人が考え, それを図や式, ことばなどで書くとともに, 互いに発表し合い分かり合う活動を工夫する。
  - ・ 学習した内容を明確に示し, 児童がそれらを繰り返し用いることができるようにする。

# 中学校 数学 <調査結果・指導のポイント>

## I 教科全体の概要

### 1 教科全体の状況

- ・ 達成率は、中2は70%をわずかに下回っている。また、中3は60.9%で良好とはいえない。
- ・ 基礎より応用の達成率が低く、特に中3の応用については課題である。
- ・ 到達度分布グラフから、平坦な台形で概ね3つの山が見られることから、個人差が大きくA層・B層・C層が比較的是っきりしていることがうかがわれる。
- ・ H15の調査で課題の見られた論証・記述式問題について、無解答率が高く、特にC層においてその傾向が強く、引き続き課題である。

### 2 観点別・領域別の状況

- ・ 「知識・理解」については、概ね良好といえる。
- ・ 「数学的な見方や考え方」の達成率は低く課題である。
- ・ 領域別達成率では、中2の「数と式」、中3の「図形」は概ね良好であるが、「数量関係」が中2で49.1%、中3で52.7%と共通して低く、個人差も大きい。

### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 数学が好きだと答えた生徒は中2で53.9%、中3で53.1%と、良好とはいえない。
- ・ 「数学の問題を解いた後、ミスがないか見直すようにしている」と回答した生徒は、中2で69%、中3で66%と他の項目に比べて高い。
- ・ 「数学の授業中、ことばや図を使って自分の考えや解き方を表すようにしている」と回答した生徒が約35%にとどまり、特にB層・C層の値が低い。
- ・ 「わからなかった問題やテストでまちがえた問題は、繰り返し練習してまちがえないようにしている」という設問では個人差が大きい。

## II 考えられる要因・背景

- 「数と式」や「図形」の「知識・理解」「表現・処理」等、基礎的な設問の通過率が比較的高い要因として、「数学の問題を解いた後、ミスがないか見直すようにしている」ことの指導や各学校でのドリル学習の取組等が考えられる。
- 応用、領域では「数量関係」、観点では「数学的な見方や考え方」の状況が十分ではない背景として、「問題をいろいろな方法で考える」「ことばや図を使って自分の考えや解き方を表す」学習が不足していること等が考えられる。
- 論証・記述式問題については、「結論を論理立てて証明するのはおもしろい」と感じる生徒が少ないことから、そのよさや必要感を実感する学習が不足していたり、記述の仕方等のきめ細かな指導が十分ではなかったりしていること等が要因と考えられる。
- 「わからなかった問題やテストでまちがえた問題は、繰り返し練習してまちがえないようにする」態度の有無が、個人差が大きいことの要因の一つと考えられる。

そこで、数学科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。



## III 指導の重点

- 数学的活動を積極的に取り入れ生徒の主体的な学習を重視する。
  - ・ 観察・実験等の活動を通して、課題を見つけたり考えたりする活動を取り入れる。
  - ・ 自分の考えをことばや図、式を使って表す活動を取り入れる。
  - ・ 互いの考えを発表し合う中で、見方や考えのよさに触れる等の活動を取り入れる。
- 繰り返し学習・継続的な学習を習慣化し、個に応じたきめ細かな指導を充実する。
  - ・ 繰り返し学習・継続的な学習によって計算等基礎的・基本的な事項の定着を図る。
  - ・ 論証・記述式問題等についても手順や記述量等、実態に応じてきめ細かく指導する。

## 小学校 社会 <調査結果・指導のポイント>

### I 教科全体の概要

#### 1 教科全体の状況

- ・ 達成率は小5で70.2%、小6で80.1%、中1で77.2%であり、概ね良好であると思われる。
- ・ 記述式の問題において、無解答率が高い。

#### 2 観点別・領域別の状況

- ・ 「社会的な思考・判断」の達成率は、小5、小6は良好であるが、中1の達成率58.5%であり、やや低い。
- ・ 「観察・資料活用」の技能・表現の達成率は、概ね良好であると思われる。
- ・ 「社会的事象についての知識・理解」の達成率は、小6で概ね良好であると思われるが、小5の達成率は48.1%と低く、課題である。
- ・ 小5の「都道府県の様子」の達成率が46.9%と低く、課題である。

#### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 社会科が好きだと答えた児童は、小5で54.2%、小6で60.8%、中1で60.3%と他の教科等と比べて低く、良好とはいえない。
- ・ 教科に関する関心・意欲・態度に関するアンケート結果では、社会のできごとなどに対しては関心が高いが、自ら学ぶための学習方法や社会的事象の意味を理解していくための学び方を身に付けるような学習の経験が少ない傾向がうかがえる。

### II 考えられる要因・背景

- 自分のくらしとかかわりの深い社会事象について問う問題では、概ね通過率が高いことから、日常生活と結びつけて具体的なイメージをもってとらえることができる児童生徒が多いと考えられる。
- 複数の資料から情報を読み取り判断する問題の通過率が低いことから、「グラフや図、表などの資料から分かった情報を整理して読み取ること」を一層丁寧に指導することが必要であると考えられる。
- いくつもの用語の意味を理解した上で判断して答える問題で、通過率が低いことから、「自分の考えを書いてまとめたり話し合ったりすること」や、「新しく学んだことを確認したり復習したりするような学習習慣を身に付けさせていくこと」が必要であると考えられる。
- 文章や用語を記述して答える問題では、無解答率が高いものが多いことから、自分の考えを書いたりしてまとめていく学習を大切にしていけることが必要と考えられる。

そこで、社会科の授業に当たっては、次の3点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。



### III 指導の重点

- 社会的事象の意味を追求する楽しさを味わわせることのできる指導を工夫する。  
(人物の願いや事象間の関係などについて自分の考えをまとめたり表現したりする場の設定、お互いの考えを出し合い多様な見方や価値観などに触れる場の設定、身のまわりの社会事象と結びつけて考えていく場の設定、 など)
- グラフや図、表など資料から必要な情報を読み取る指導を工夫する。  
(複数の資料から得られた情報を整理し読み取る活動の設定、資料から読み取って分かったことを書く活動の設定、資料から読み取ったことや調べたことを全体で検討し合う活動の設定、 など)
- 学習した内容が確かな知識として定着できるような指導を工夫する。  
(目標や身に付けてほしい学習内容を明確にするための教材研究、出てきた地名や人名などを地図帳や年表で確認する活動、学習したことを振り返る場の設定、学んだことの記録が残るノートづくりの指導、 など)

## 中学校 社会 <調査結果・指導のポイント>

### I 教科全体の概要

- 1 教科全体の状況
  - ・ 達成率は中2で70%をわずかに下回っているが、中3は、74.9%であり、概ね良好であると思われる。
  - ・ 記述式の問題は、A-B層、B-C層の通過率の差が大きく、筋道を立てて書く力に差が見られる。また、記述式の問題で無解答率が高かった。
- 2 観点別・領域別の状況
  - ・ 「知識・理解」の観点における問題の通過率がやや低い。また、A-C層の差が大きい。
  - ・ 「観察・資料活用の技能・表現」の観点の達成率は、中2で74.2%、中3で73.6%。また、「社会的な思考・判断」では、中3で77.3%であり、概ね良好であると思われる。
  - ・ 中2では「地域の規模に応じた調査」(77.9%)、中3では「地域の規模に応じた調査」(78.6%)、「世界と比べてみた日本」(77.5%)で達成率が高く、地理的分野での達成率が高い傾向にある。しかし、中2では「世界と日本の地域構成」は達成率が59.0%とやや低く、課題である。
  - ・ 中2では「日本の中世」についての達成率が44.2%、中3では「近現代の日本と世界」が51.5%で、他の領域と比較して低く、課題である。
- 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況
  - ・ 中2、中3とも、社会科に対する関心・意欲・態度は良好とはいえない。
  - ・ 「授業では、社会や歴史の出来事について、自分の考えを書いたり話し合ったりする学習をよくする」ことに対して肯定的に回答した生徒が中2、中3とも30.0%と低く、受動的な学習展開になっていることがうかがえる。
  - ・ 「社会の学習で新しく学んだことは、復習するようにしている」については、中2で37.9%、中3が35.2%であり、理解の定着のための学習習慣に課題がある。

### II 考えられる要因・背景

- 地理的分野では「地域の規模に応じた調査」、「世界と比べてみた日本」の領域について通過率が高いことから、地域の教材化や図書館・インターネットを利用して資料を集め、活用したりする学習が積極的に取り組まれていることがうかがえる。
- 歴史的用語を解答する問題で無解答率が高いことや、「新しく学んだことは復習するようにしている」の肯定的な回答割合が少ないことから、学習内容が身に付くような指導の工夫が必要と考えられる。
- 筋道を立てて考えたり、書いたりする問題の通過率が低いこと、「自分の考えを書いたり話し合ったりする」ことに肯定的な回答が低いことから、日常の授業が受動的で自分の考えをまとめて書いたり、話し合ったりする学習経験が十分ではないことがうかがえる。

そこで、社会科の授業に当たっては、次の3点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。

### III 指導の重点

- 社会的な思考・判断力を高める学習を展開する。  
(複数の資料から読み取ったことをもとに自分の考えを書いたり、話し合ったりする時間を設ける、社会的事象について多面的・多角的に考える場を設定する、など)
- 生徒が自ら学んでいく力を育てるため、学習の仕方を身に付ける指導を工夫する。  
(ノートのとり方や調べ方、復習の仕方などの学習の仕方、基礎的な知識・技能を定着させるための家庭学習の仕方などの指導を充実する。学んだことを書いてまとめたり、自分の考えを記述したりするなどの学習を取り入れる、など)
- 世界や日本の地域構成をイメージ豊かにとらえる学習、歴史の大きな流れをとらえる学習を展開する。  
(地球儀や地図を活用し、具体的な地域の枠組みをとらえる学習、グラフや絵画資料、史料を活用した時代の特色をとらえ、関連づける学習、など)



# 小学校 理科 <調査結果・指導のポイント>

## I 教科全体の概要

### 1 教科全体の状況

- ・ 達成率は、小5 (56.0%) は低く、小6 (75.2%)、中1 (75.5%) は概ね良好であると思われる。
- ・ 基礎については、どの学年も達成率が70%を超えており、概ね良好であると思われる。しかし、応用の部分は、小5 (42.4%)、中1 (61.4%) が低く、課題である。
- ・ 全体的に記述式の問題（選択式以外の図や用語の問題を含む）に対して、無解答率が高い。

### 2 観点別・領域別の状況

- ・ 知識・理解については、達成率で小5 (79.2%)、小6 (68.1%)、中1 (86.0%) と、比較的高い傾向にある。科学的な思考では、小6と中1が80%を超えているのに比べ、小5 (42.4%) が低い。
- ・ 技能・表現では、小5 (31.0%)、小6 (66.3%)、中1 (53.6%) と全体に低い。

### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 「理科が好き」と答えた児童は、小5・小6では75%前後であり、比較的高い数値を示している。理科の学習の理解度については、各学年とも80%前後の高い数値である。
- ・ 自然に関する不思議さやすばらしさを肯定的に受け止めている児童は多いが、わからないことを進んで調べるような自主性・主体性が不足している。

## II 考えられる要因・背景

- 理科が好きと答えたり、「授業では、よく観察・実験をしている」と答えたりしている児童が多いことから、観察・実験等の体験を重視した授業が展開されていると考えられる。
- 記述式の問題に対して無解答率が高くなることから、授業の中で自分の考えを書いてまとめたり、説明したりする活動場面が不足していると考えられる。
- 技能・表現の観点で、実験器具の扱い方や用語についての問題の通過率が十分でないことや、調べることに對して主体的な取組への意識が低いことから、観察や実験が児童自身にとって見通しのあるものになるような取組が不足していると考えられる。

そこで、理科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。



## III 指導の重点

- 科学的な思考力を身に付けることに重点を置いた指導を充実する。  
観察、実験のまとめを行ったり、考察したりする際、児童が自分の考えを書いてまとめたり、自分の言葉で発表したりする時間を十分にとって、児童自身の言葉や発表を大切にされた授業を展開する。
- 見通しをもった観察や実験となるよう指導を工夫する。  
観察や実験にかかる時間を確保し、結果を予想するなど、児童が見通しをもって観察・実験を行うように工夫していくとともに、実験器具の操作の習熟を図ったり、一つ一つの操作の意味などを十分に理解させたりするような指導過程を重視する。

# 中学校 理科 <調査結果・指導のポイント>

## I 教科全体の概要

### 1 教科全体の状況

- ・ 中2では達成率が約65%と良好とはいえないが、中3では70%以上あり、概ね良好であると思われる。
- ・ 基礎の達成率では両学年ともほぼ70%あり概ね良好であると思われるが、応用は約60%であり、良好とはいえない。
- ・ 到達度分布は、中央付近の生徒の割合が小学校に比べて、少なくなる傾向が見られ、形がなだらかになっている。
- ・ 自分の考えをまとめて書く記述式問題では、無解答率が高い。

### 2 観点別・領域別の状況

- ・ 観察・実験の技能・表現の達成率が両学年で70%を下回っており、中2では、科学的な思考力が約60%である。
- ・ 身近な物理現象や身の回りの物質、電流など、特に1分野において達成率が他の領域に比べて低くなっている。

### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 理科の学習の理解度の割合が、小学校での約80%に対して中学校では約60%と、低くなっている。
- ・ 自然現象や物質の変化に対する興味関心の高い生徒の割合は両学年で70%以上と多いが、わからないことや興味のあることについて自分から調べるようにしている生徒は約30%と低く、自主性・主体性が不足している。
- ・ 観察や実験に際し、器具や薬品の使用理由などを理解して行っていると回答している生徒は約70%と、概ね良好であると思われる。

## II 考えられる要因・背景

- 基礎・基本に関わることは、授業の中で確実に指導されており、特に、観察や実験に際しては、使用器具や薬品等についての指導が的確に行われていると思われる。
- 選択肢形式の問題では通過率が比較的高いものの、記述式問題では無解答率及び誤答率が高くなることから、授業の中で自分の考えを書いたり説明したりし、学習内容や知識を体系化したり確実に習得するための指導が不足していると考えられる。
- 観点の中で、科学的な思考力の達成率が低い学年もあること、また、電流や湿度、作図、モデル図についての通過率が低いことから、抽象的概念や新しい概念を扱う場合(単元)は、作図やモデル図などの活用と、時間をかけた指導をすることが不足していると考えられる。

そこで、理科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。



## III 指導の重点

- 科学的な思考力を身に付けることに重点を置いた学習を充実する。  
新しい学習内容や観察・実験の結果をまとめる際には、互いに自分の考えを発表しあったり比較検討しあったりする学習場面を設定したり、ノートやレポートに生徒自身の考えをまとめたりすることを重視した授業を展開する。
- 視覚的にとらえにくい現象の理解を促す学習を工夫する。  
電流や水蒸気、原子・分子や光の進む道筋など、視覚的にとらえにくい学習内容や抽象的概念を必要とする学習内容では、模型や作図、モデル図等の活用と、生徒が理解するまでに必要な時間をかけた授業を展開する。

## 中学校 英語 <調査結果・指導のポイント>

### I 教科全体の概要

#### 1 教科全体の状況

- ・ 達成率は、中2で75.8%で概ね良好である。中3ではわずかに70%を下回っている。
- ・ 全学年とも到達度の分布にばらつきがあり、特に中3で個人差が広がっている。

#### 2 観点別・領域別の状況

- ・ 全学年とも「理解」の達成率が80%を超えており、良好であると思われる。とりわけ、「リスニング」の達成率は、中3で88.4%と、良好である。
- ・ 「表現」の達成率は、中2で54.9%、中3で44.0%で、課題である。とりわけ、中3では「条件英作文」、「英問英答」の通過率が20%台後半、中2では「英語的表現」の通過率が10%台前半で、課題である。

#### 3 教科に関する関心・意欲・態度の状況

- ・ 英語が「好き」と答えた生徒は、中1で73.5%、中2で51.1%、中3で47.5%と、学年を追って低下している。
- ・ 中2では、「英語で話しかけられたときに、相手の言うことを聞き取ろうとしている」で肯定的な回答をした生徒の割合は83.6%と、良好である。中3では、「英文の意味をくわしく正確に理解する学習のとき、知らないことばが出てきたら、自分で調べようとしている」で肯定的な回答をした生徒の割合は71.6%で、概ね良好である。
- ・ 「授業では、表現したいことを自分で考えて英語で書く活動をしている」で肯定的な回答をした生徒の割合は、中2では40.2%、中3では41.7%で、全学年に課題がある。

### II 考えられる要因・背景

- 「リスニング」について良好な結果が得られたことは、生徒が英語で話しかけられたときに相手の言うことを聞き取ろうとしていたり、ALT等の活用を通して生徒が英語を聞く機会が増えていたりすることなど、授業におけるリスニングの取組の成果が現れているからと考えられる。
- 「英問英答」が十分でない状況から、日常的、継続的に、英語による問答を行い、それを「書くこと」につなげた授業を展開することが不足していると思われる。
- 「条件英作文」が十分でない状況から、生徒が表現したいことを自分で考えて英語を書く指導が不足していると思われる。

そこで、英語科の授業に当たっては、次の2点について重点的に改善していくことが大切であると思われます。

### III 指導の重点

- 日常的、継続的に英問英答を行う。  
日常的、継続的に英問英答を行うことを通して英語の表現に慣れさせ、コミュニケーション活動の中で基本的な文法事項の定着を図るとともに、例えば、スキットづくりなどの「書くこと」を取り入れた授業を展開することが大切である。
- テーマを指定して、つながりのある複数の英文を書かせる指導を行う。  
指定されたテーマについて、つながりのある複数の英文を書く活動を取り入れた授業を展開することが大切である。その際、例えば、自己紹介やshow and tellのような、「話すこと」と関連させた「書くこと」の指導を行うなどの工夫が望まれる。

## 意識調査〈結果・改善に向けて〉

### 意識調査全体の概要

#### 1 意識調査全体の状況

- ・「学習の基礎となる力」（視点）では、「学習意欲につながる力」（要素）において、小学校・中学校両方で肯定的な回答の割合が70%を超えているが、「学習内容を身に付ける力」（要素）は、小学校・中学校両方で50%台と低い。
- ・「社会の中で生きて働く力」（視点）では、他の要素と比べ、「社会にかかわる力」（要素）、「問題を解決しようとする力」（要素）において肯定的割合が低い。
- ・「家庭・学校の状況」（視点）では、「学校での指導・活動」（要素）において「まちがえた問題や自信のない問題に、くり返し挑戦しようとする」と「ふだん学校で言われている」で、学年が上がるにつれ肯定的な回答の割合が高くなる傾向がある。「友だちの悩みについて話し合う」、「友だちの良いところや友だちから学んだことを話し合う」では、学年が上がるにつれて肯定的な回答の割合が減っている。
- ・「教科の好き嫌い」と「理解度」（要素）では、全教科において、小学校で肯定的な回答の割合が高い。
- ・「学習時間・読書量など」（要素）では、「家庭での自分自身の力による学習時間」の平均時間で平日の場合、小学校で32.7分、中学校で41.3分である。休日の場合は、小学校で34.6分、中学校で52.4分である。

#### 2 意識調査と学力との関連

- ・A層～C層の値から、多くの質問項目で学力との関連が見られた。
- ・「学習内容を身に付ける力」、「問題を解決しようとする力」、「学校での指導・活動」の要素は、否定的な回答が多く、学力との関連が高いと考えられる。

#### 3 平成15年度島根県教育課程状況調査との比較

前回の調査は小6、中3で約20%を抽出し1月に実施した。今回の調査は悉皆で5月に実施しており、実施時期の違いを考慮する必要があるが、前回の調査結果と比較して特徴的だったのは、次の内容である。

- ・「基礎となる生活体験」では、「朝食は毎日食べるようにしている」について、肯定的な回答をした中3の割合が増えている。
- ・「学習意欲につながる力」では、「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」、「同じまちがいをくり返さないように気をつけている」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増えている。また、「自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、小6では増えたが、中3で減っている。
- ・「学習内容を身につける力」では、「授業で習ったことは、その日のうちに復習している」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合が減っている。

1「学習の基礎となる力」について

- ・様々な価値ある体験の不足や、人との関わりの希薄さが考えられる。
- ・学習することに対する必要感や意義を感じにくい状況があると考えられる。
- ・与えられたことには自覚をもって取り組むが、自分から進んで課題を見つけ、学ぼうとする主体的な態度が十分に育っていないと考えられる。
- ・就寝時刻の不規則さなどにより、基本的な生活習慣に乱れが生じていると考えられる。

2「社会の中で生きて働く力」について

- ・自分で意思を決定し、人にわかりやすく伝える機会の不足や、人間関係を築いていくようなコミュニケーション能力の不足が考えられる。
- ・自分が抱いている夢や理想を現実的な進路に結びつけていこうとする意欲がやや弱いと考えられる。

3「家庭・学校の状況」について

- ・家庭において、保護者の生活習慣改善についての意識は高まっているが、一家団欒などの心の触れ合う時間などが少なくなっていると考えられる。
- ・学校では、児童生徒が集団生活の中で、所属欲求や承認欲求が満たされ、将来への見通しをもつことができるような指導が不足していると考えられる。

● 学校では

- ・児童生徒一人一人のよさが認められ、自尊感情をもてるような、温かい学校・学級集団づくりを行う。
- ・児童生徒が学ぶことの意義を理解し、目的意識をもって意欲的に取り組めるような指導の改善を行う。
- ・家庭や地域と一体となって、児童生徒に家庭学習の習慣づけを行う。
- ・夢や希望のもととなり、それを支えていくような感動体験が味わえるような機会を増やす。

● 家庭では

- ・我が家のエピソードづくりや楽しい思い出づくりをするなど、子どもと一緒に過ごす時間を大切にする。
- ・規則正しい生活リズムの定着のために、「運動」「睡眠」「食」の健康三原則についてももう一度見直す。

● 地域では

- ・学校や家庭と一体となって、子どもが安心して過ごすことができる地域づくりをさらに進める。
- ・子どもたちが興味をもち、積極的に取り組めるような体験活動やボランティア活動などをさらに進める。

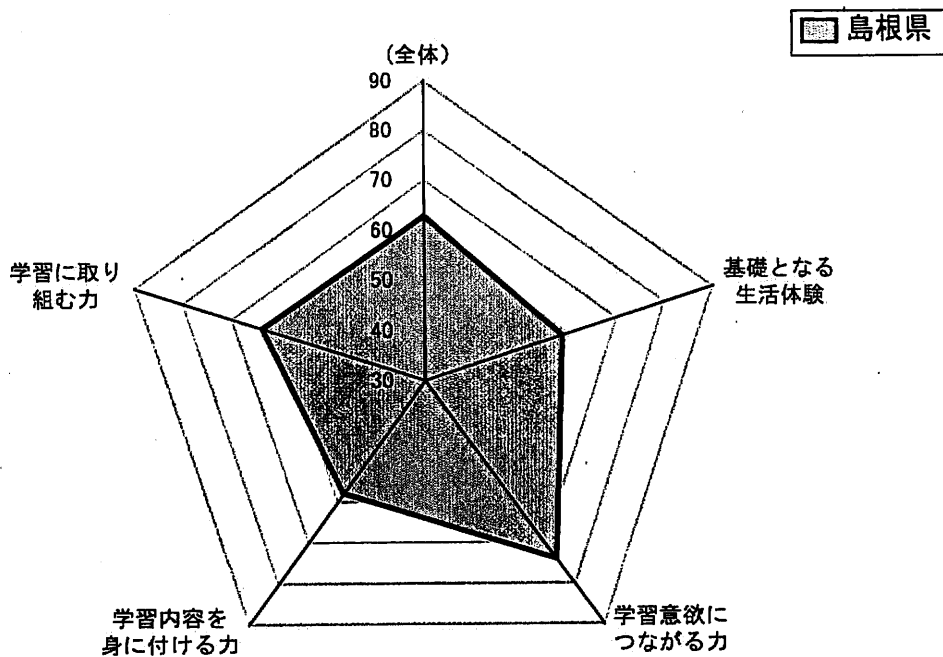
## ◆スコア一覧

各設問の回答内容を、望ましい回答内容にウエイトを置く形で数値化（スコア化）し、学習意識の個人や集団の傾向をつかみやすくしています。

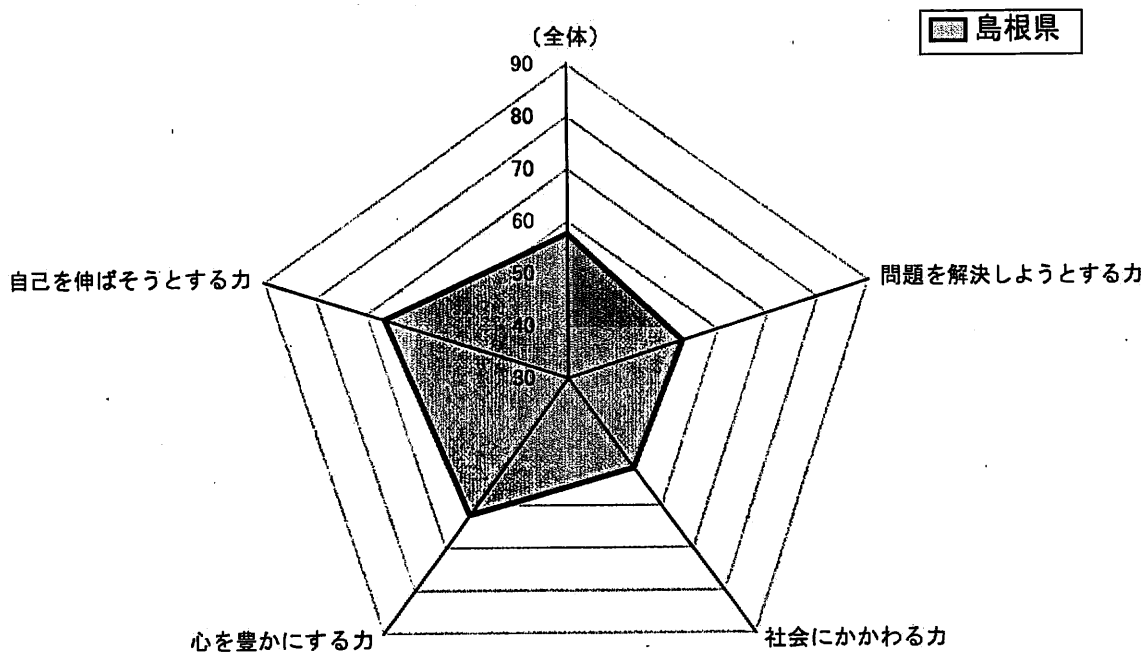
		全学年	3年	4年	5年	6年
学習の基礎となる力	(全体)	62.7	63.8	63.9	61.9	61.2
	基礎となる生活体験	58.7	57.2	59.0	59.5	59.2
	学習意欲につながる力	74.0	73.8	74.7	73.9	73.7
	感じ取る力	63.6	63.0	64.1	63.2	64.0
	学習動機	84.4	86.0	86.5	82.9	82.5
	自己効力感	72.2	72.0	73.3	72.1	71.3
	自己責任	77.0	74.4	75.2	79.4	78.7
	学習内容を身に付ける力	57.8	61.3	60.0	55.8	54.5
	学習スキル	64.4	66.6	65.7	63.9	61.9
	学習定着の方略	53.3	56.6	55.2	51.1	50.4
	学習計画力	50.9	55.4	53.7	47.9	47.0
	自宅学習習慣	64.2	68.2	66.8	62.0	60.1
	学習に取り組む力	63.7	68.6	66.3	60.8	59.4
	学習継続力	57.8	64.1	59.4	54.8	53.2
	学習のけじめ	61.5	70.4	68.1	55.3	53.1
	学習環境の整備	61.2	65.5	62.3	59.6	57.8
	授業を受ける姿勢	70.7	72.5	72.4	69.4	68.9
社会の中で生きて働く力	(全体)	57.5	59.7	59.9	55.3	55.1
	問題を解決しようとする力	53.0	54.8	56.3	50.5	50.7
	社会にかかわる力	51.2	52.0	52.9	48.5	51.4
	心を豊かにする力	62.1	66.3	65.0	59.6	58.0
	自己を伸ばそうとする力	66.4	68.2	67.5	66.6	63.4

学習の基礎となる力（全学年）

小 意識結果



社会の中で生きて働く力（全学年）

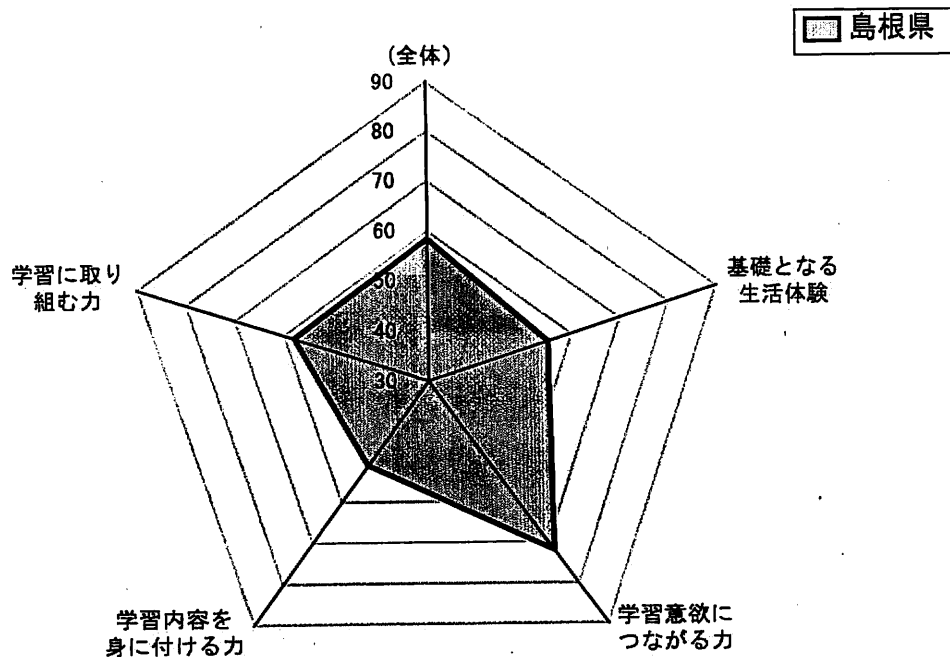


◆スコア一覧

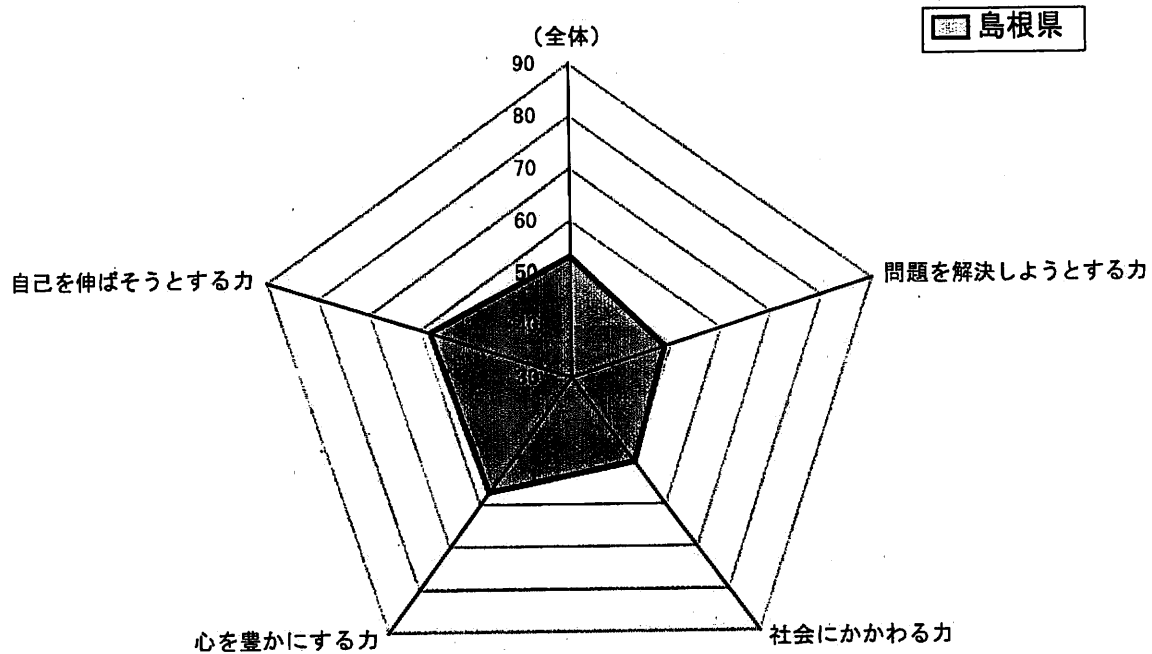
各設問の回答内容を、望ましい回答内容にウエイトを置く形で数値化（スコア化）し、学習意識の個人や集団の傾向をつかみやすくしています。

		全学年	1年	2年	3年
学習の基礎となる力	(全体)	58.2	62.5	56.1	55.9
	基礎となる生活体験	55.1	58.0	53.9	53.5
	学習意欲につながる力	72.0	75.0	70.5	70.5
	感じ取る力	66.9	68.1	65.6	67.1
	学習動機	77.7	82.5	75.7	75.0
	自己効力感	68.2	71.3	66.7	66.5
	自己責任	76.7	79.6	75.6	75.0
	学習内容を身に付ける力	50.8	57.6	47.8	47.0
	学習スキル	56.3	63.0	53.5	52.4
	学習定着の方略	48.0	54.1	45.2	44.9
	学習計画力	44.9	50.9	42.1	41.5
	自宅学習習慣	55.1	63.9	51.5	49.9
	学習に取り組む力	57.9	62.9	55.0	55.7
	学習継続力	48.8	56.7	44.6	44.9
	学習のけじめ	48.8	55.0	46.0	45.3
	学習環境の整備	57.1	60.4	55.3	55.6
	授業を受ける姿勢	70.5	74.0	67.6	69.8
社会の中で生きて働く力	(全体)	53.0	55.9	50.9	52.2
	問題を解決しようとする力	48.8	51.2	47.0	48.2
	社会にかかわる力	50.0	52.9	47.6	49.5
	心を豊かにする力	57.0	59.6	54.7	56.6
	自己を伸ばそうとする力	58.0	62.6	56.3	55.1





社会の中で生きて働く力（全学年）



意識に関する調査結果一覧

肯定→全ての学年で肯定的な回答が70パーセントを超えた項目  
 否定→小中の4学年以上で否定的な回答が50パーセントを超えた項目  
 A-C15以上→全学年で学力と関連が高いと考えられる項目  
 全国A-C15以上→H17年度ベネッセ全国調査で全学年で学力と関連が高いと考えられる項目  
 否定群多A-C15以上→否定的な回答が多く、学力と関連が高いと考えられる項目

連番	要素	小要素	設問項目	肯定	否定	A-C15以上	否定群多A-C15以上		
1	基礎となる生活体験	基礎体験	友だちと外で遊ぶ。						
2			テレビを見たり、マンガを読んだりする。	○					
3			テレビゲームなどのゲームをする。						
4			パソコンやインターネットをする。						
5			本や新聞を読む。				●		
6			ピアノや英会話などの習い事に通う。				●	●	
7			水泳や体操、サッカーなどのスポーツ教室に通う。						
8			学習塾に通う。				●		
9			自分が住んでいる地域での活動(地域の清掃など)に参加する。					●	
10			家のお手伝いをする。					●	
11								●	●
12								●	●
13								●	●
14					自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる。	○		●	
15					家族は自分のことを気にかけてくれていると思う。	○		●	
16					今まで教えてもらった学校の先生は、自分のことを認めてくれていると思う。			●	
17	基本的生活習慣		朝食は毎日食べるようにしている。	○					
18			朝、自分で起きることができる。			●			
19							●	●	
20	学習意欲につながる力	感じ取る力	ふだんから「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある。			●			
21			本やドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある。			●			
22		学習動機	学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	○		●			
23			学習して身につけた知識は、いざれ仕事や生活の中で役に立つと思う。	○		●			
24		自己効力感	学習して、わかったりできるよになったりすることが、増えていくことはうれしい。	○		●			
25			自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。	○		●			
26		自己責任	努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う。	○		●			
27			自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。			●			
28		学習スキル	ものごとをやりとげた時のよろこびを、味わったことがある。	○		●			
29			成績が悪かったときは、自分の努力が足りなかったからだと思う。	○		●			
30	学習内容を身に付ける力	学習スキル	同じまちがいをくり返さないように気をつけている。	○		●			
31			黒板に書かれなくても、大事なことはノートに書きとめている。			●			
32		先生や友だちから聞いた学習の方法を参考にしている。			●				
33		テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。			●				
34		学習定着の方略	授業で習ったことを、自分なりにわかりやすくまとめている。			●	●		
35			授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解しようとしている。			●			
36		学習計画力	教科の内容をどれくらい理解できているかわかっている。			●			
37						●			
38	自宅学習習慣	宿題はきちんとやっている。	○						
39		興味を持ったことを、自分から進んで学習している。			●				
40	学習に取り組む力	学習継続力	わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。			●			
41			学習を始めたら、他のことに気をとられないで、集中している。			●			
42		学習のけじめ	勉強いや思い込みがないが、しっかり見直しをしている。			●			
43						●			
44		授業を受ける姿勢	必要なものをきちんとそろえてから、学習を始めている。	○		●			
45	人の話は最後まで、きちんと聞いている。		○		●				
46	問題を解決しようとする力	社会にかかわる力	ふだんから、ちこくや忘れ物をしないようにしている。	○		●			
47			授業を集中して受けている。	○		●			
48		心豊かにする力	調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。			●			
49			筋道を立てて、ものごとを考えることができる。			●	●		
50		自己を伸ばそうとする力	学校のきまりや規則を守っている。	○					
51			テレビのニュースや新聞などで、最近の社会のできごとをよく知っている。			●	●		
52		社会の中で生きて働く力	社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある。			●	●		
53						●			
54		心豊かにする力	近所の人に出会ったとき、あいさつをしている。	○		●			
55			自分がやらなければならないことは、責任を持ってやりぬくことができる。	○		●			
56	自己を伸ばそうとする力	むずかしいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる。			●				
57		いつも斬新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている。			●				
58	自己を伸ばそうとする力	自分とちがう意見も尊重している。			●				
59					●				
60	自己を伸ばそうとする力	将来かなえてみたい夢がある。			●				
61					●				

連番	要素	小要素	設問項目	肯定	否定	A-C 15以上	百分群多 A-C15以上
68	進学意欲	家庭での指導・活動	学校に行くのが楽しい。	○		●	
69			新聞記事が面白く、読んだり聞いたりする。			●	
70			家族から世の中の出来事や時局動向などの話を聞く。			●	
71			家族といっしょに工作や料理などをする。			●	
72			夕食は家族といっしょに食べている。	○			
73			家族からたよりにされて、何かの役割をまかされている。			●	
74			習い事やスポーツ、学習などで自分が立てた目標を達成できるように家族が応援してくれる。			●	
75			学校で学習したことが社会に出た時に役に立った話を、家族から聞いたことがある。			●	
76			将来の夢やこれからの進路について家族と話す。			●	
77			食器の後かたづけなど、自分のことは自分でするように、言われている。			●	
78			早寝早起きなど、規則正しく生活するように、言われている。			●	
79			人が話しているときはしっかり聞くように、言われている。			●	
80			ふだんから計画的に学習するように、言われている。			●	
81			やりはじめたことは途中で投げ出さないうで最後までやりとげるように、言われている。			●	
82			よく確かめて、間違いや思い込みをなくすように、言われている。			●	
83			朝食は毎日食べるように言われている。	○		●	
84			自分のことは自分でするという習慣を身につけよう。			●	
85			見直しや確かめをして、間違いや思い込みをなくそう。			●	
86			新しいことを学ぶときは、これまでに学んだことを組み合わせて考えてみよう。			●	
87			授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えてみよう。			●	
88	まちがえた問題や自信のない問題に、くり返し挑戦しよう。			●			
89	家庭でも、毎日、時間を決めて学習したり、読書をしたりする習慣をつけよう。			●			
90	学校での指導・活動	読書や新聞の活用は積極的にしよう。			●		
91		おもしろい実験や楽しい教材を使って学習する。			●		
92		授業の進め方や教材の使いかたなどから、自分の学習のペースや方法を工夫しよう。			●		
93		先生の話をよく聞き、質問を積極的にしよう。			●		
94		自分の得意な科目や得意な分野を積極的に活用しよう。			●		
95		自分の得意な科目や得意な分野を積極的に活用しよう。			●		
96		先生から、がんばっている先輩や友達についての話を聞く。			●		
97		ふりかえりテストなどで自分がわからなかったところを確認する。			●		
98		学習内容が理解できなかったり、テストでまちがえたりした原因について考える。			●		
99		教科の好き嫌い と理解度	教科の好き嫌い	国語			●
100	社会					●	
101	算数・数学					●	
102	理科					●	
103	音楽					●	
104	図画工作・美術					●	
105	体育・保健体育			○		●	
106	家庭科・技術・家庭					●	
107	英語					●	
108	総合的な学習の時間					●	
109	道徳				●		
110	学級活動				●		
111	国語				●		
112	社会				●		
113	算数・数学				●		
114	理科				●		
115	音楽				●		
116	図画工作・美術				●		
117	体育・保健体育		○		●		
118	家庭科・技術・家庭				●		
119	英語			●			
120	学習時間・ 読書量など (多選択式回 答)	学習時間	塾や家庭教師でみてもらう学習時間(平日)			●	
121			塾や家庭教師でみてもらう学習時間(休日)			●	
122			自分自身の力による学習時間(平日)			●	
123			自分自身の力による学習時間(休日)			●	
124			読書量	この1ヶ月間に読んだ本の数			●
125		テレビをみる 時間	平日にテレビを見る時間。			●	
126			休日にテレビを見る時間。			●	
127		ゲームをする 時間	平日にゲームをする時間。			●	
128			休日にゲームをする時間。			●	
129		部活動	部活動の参加状況			●	
130	進路意識	あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。			●		